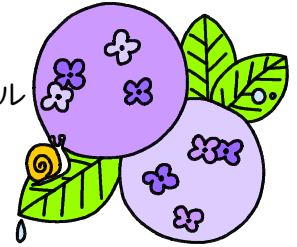


神戈陵を渡る風3

令和5年度 川辺高校 校長通信 第104号(通算)

令和5年5月26日(金)発行

5月もう残すところ一週間足らずとなりました。来週の後半からは6月です。まもなく、文化祭がやってきます。これまでの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策によって、活動を縮小していた文化祭と異なり、従来の形をリニューアルした新しい文化祭が計画されています。梅雨空に負けない辺高生のパワー溢れ、大いに楽しむことが出来る文化祭にしましょう。皆さんの溢れる笑顔が見られることを楽しみにしています。



学年朝礼の様子

令和5年5月1日(月)

【3学年】

江平芙美佳・塗木愛佳・和志武舞美さんらのプレゼン(『知覧ねぶた』について)



【2学年】 前村先生の講話



今日は、使い方によって人生を大きく変える可能性を秘めたものについて話します。

その正体は→「未来創造」です。

毎日書いていると思いますが、ただ書くだけになったり、適当に書いてしまったりしていませんか。たかが3~5分のことかもしれませんが、毎日続けるとなると難しいものです。ただ、これを通じて「今日の自分」に真剣に向き合い、「明日の自分」の目標を立てるサイクルを作るか否かで、一週間、一ヶ月、一年、三年と期間が長くなればなるほど大きな差が生まれると思

いませんか。人生1日1日の積み重ねです。その日その日の「目標」が「生きがい」であり、人生を大きく変えることにもなります。良かったこと、悪かったこと、好き嫌い、得意不得意を書くだけでも進路の参考になったり、これからの自分のためになると思います。自分の可能性を信じて、「未来の自分」の為に、今日から真剣に向き合ってみてください。

【1学年】 堂下先生の講話



母との思い出

私の父は外国航路の船員でよく家には居なかった。その代わりにしたのが祖父母と母だった。小さい頃は手伝いをよくさせられた。特につらかったのが炎天下での稲刈りだった。また養蚕もしていたので、桑の葉を桑畑に取りに行くのもつらかった。そんなとき母はやさしく励ましてくれた。母もきつかったらうに、そのことをおくびにも見せなかった。

大学入試が終わって名古屋市で大学生活を送ることになった。母と一緒に名古屋市に赴き、住む部屋決めたり、生活に必用なものを買ってもらった。その夜寝る前に母が言った言葉を今でも覚えている。「人に迷惑をかけないでね。私たちは遠く鹿児島にいるのですすぐには来れないよ。がんばるんだよ。」厳しい母だった。優しい母だった。母のこの言葉がいまでも思い出され、苦しいときの励みになる。

校長の美術館巡り

令和5年5月

今年のゴールデンウィーク後半は雨の日が多かったですね。雨の中でもゆっくり出来る芸術鑑賞ということで、県内の美術館をいくつか散策したので紹介します。



①長島美術館(鹿児島市)



鹿児島中央駅の北側にある丘陵地に長島美術館はあります。



郷土出身者の美術作品も多数展示してあり、薩摩焼などの展示も沢山あります。敷地内には、至るところに彫塑作品が展示してあり、桜島とコラボされた眺めも最高です。企画展も今回は、「幻想のランプと花のガラス展—アール・ヌーヴォーの世界—」という企画でドーム兄弟やガレの作品を沢山見ることが出来、不思議な感覚を覚えました。

②松下美術館(霧島市)

錦江湾奥の霧島市福山町の海岸から少し山の手に入ったところにある美術館が松下美術館です。



九州でも指折りの素晴らしい環境下の美術館で、個々にも郷土出身者の作品が沢山展示してあります。また、ピカソなどの絵も見ることが出来る凄いところですよ。南九州のお面などとても珍しいコレクションも沢山あり、あっという間に二時間以上の時を過ごしていました。



【注意】 基本的に美術館は撮影禁止の所が多く、作品の撮影は遠慮しています。